

チェコ共和国における民主化と都市空間の変化

—民主化 20 年後の東欧—

芦川 智・金子友美・高木亜紀子

Democratization in the Czech Republic, and Changes in Its Urban Spaces
—Eastern Europe 20 Years after Democratization—

Satoru ASHIKAWA, Tomomi KANEKO and Akiko TAKAGI

Between 1975 and 2009 we conducted four surveys about cities in the Czech Republic (formerly part of Czechoslovakia). It has been about 20 years since the democratization began in 1990. Our surveys reveal that there have been enormous positive changes during these years. Among these are various democratic changes in urban spaces in the Czech Republic: the number of both domestic and foreign travelers has increased, user-friendliness in many services has been enhanced, ample commodities are available, beautiful facades have been restored, and memorials of the 1968 revolution have been removed.

We also develop a 5-point-taxonomy for the shape of 33 open spaces in 30 cities surveyed in what is now the Czech Republic in 1990, 1998 and 2009. We conclude that the most common shape of open spaces in the Czech Republic is curved, and that this is often true in open spaces that have existed since medieval times, in contrast to modern square, oblong, or round types.

Key words: urban space (都市空間), Eastern Europe (東欧), Czech Republic (チェコ共和国), Czechoslovakia (チェコスロバキア)

(1) はじめに

初めて現在のチェコ共和国へ入ったのは1975年8月から10月にかけて、東欧からイランへの調査旅行の途次のことで、チェコスロバキアがまだチェコ共和国とスロバキア共和国(以下、「共和国」を略す)に区分されていない時代である。当時は1968年の「プラハの春」から7年目であり、東欧はワルシャワ条約機構の元に社会主義の世界であった。物資は不足し、ガソリンを得るのに行列を作り、朝にはパンを買う人々が店に並ぶ、そんな光景が目立った。そして「プラハの春」から21年後の1989年、ベルリンの壁が崩壊し、チェコスロバキアでも民主化がなされた。その1年後1990年の夏に再度チェコスロバキアに入った。社会主義の足かせが取り払われた市民たちは明るく、将来の生活に対して希望の持てる雰囲気醸し出していた。それから8年後の1998年に入国した時は、チェコとスロバキアとに分離独立してから5年後にあたる。入国にビザが必要とされた時代の終わりを1週間後に迎える時であった。4回目となる2009年にオーストリアから陸路入国した時

には国境の検問もなくなっていた。2004年にチェコはEUに加盟し、それまで東欧に所属していたチェコは、中欧の4カ国(ポーランド、チェコ、ハンガリー、スロバキア)として括られ、自由貿易経済を支える国となった。

このような激動の民主化の歴史とともに、チェコの都市空間はどのような変化を遂げたのか。本稿では1975年から2009年までの4回の調査結果を検証し、調査時に身を以って感じたことや経験を回顧しながら、変化を概観する。

(2) チェコ民主化の歴史と調査の実施

チェコスロバキアの国家が現在のチェコとスロバキアの姿として出現したのは第一次世界大戦後のベルサイユ体制下である。独立は1918年であるが、長く神聖ローマ帝国の圏域とオーストリア・ハンガリー帝国の下属州としての地位に甘んじていた。チェコの圏域は元のボヘミア王国を基礎としているが、いわゆるチェコ人とドイツ系住民、ハンガリー系住民、ポーランド系住民とスラブ系住民の混合の多民族国家として独立した。

そして第二次世界大戦末期の1945年、ソ連邦はドイツ

に侵攻し、その結果として、大戦後の東欧地域は長く共産主義世界となり、事実上のソ連の支配下に東西の冷戦が始まったのである。1955年にはワルシャワ条約機構が結成され、東ヨーロッパ諸国の軍事同盟が成立した。

チェコの民主化の発端は1968年、「プラハの春」と呼ばれる改革運動である。東欧の民主化の開始をベルリンの壁崩壊の1989年とすると、それに先立つ21年前のこととなる。結局ワルシャワ条約機構軍が侵攻し、プラハのヴァーツラフ広場はソ連の戦車隊が占拠した。その「プラハの春」から7年後の1975年、初めて東京大学のチームの一員として芦川は調査に参加した。当時東西の冷戦下の社会主義の圏域に入ることが躊躇されるのは当然であった。本来は調査を申告し許可を得てからの入国が実際的であると考えたが、許可に日数がかかることと、果たして許可されるかという疑問もあったため、全くの旅行者として入国し、勝手に調査を実施してしまうことにした。調査要領として、調査が難しくなる状況が起きたらすみやかに退去する、という鉄則を全員が確認しあった。危惧した通り、行程中何度か拘束されることが発生したが、調査はある程度実施することができた。

1989年の東欧革命と1991年のソ連邦の崩壊は東欧地域に大きな変革をもたらしたが、1990年、東欧地域の2回目の調査を実施した。まだ革命直後のため、社会主義時代の体制が残っており、物資の不足は東欧各国ではっきりしていたし、いろいろな面で旅行はしづらかった。なかでも、宿泊施設の不足が最も支障となった。

元々多民族国家として独立していたチェコスロバキアでは徐々に民族主義が台頭し、1993年にチェコとスロバキアが分離独立する。3回目の1998年の調査は、スムーズに行えた。東欧という概念はもはやチェコにはなく、中欧の中心としてチェコは位置づけられていた。2009年の4回目の調査時は、国境の検問がないだけでなく東欧の革命は遠い昔となり、革命記念碑も確認できなかった。1990年の調査時には、プラハのヴァーツラフ広場の彫像前に、革命を祈念して命を捧げた戦士の写真や花束があったが、2009年にはそれらは姿を消していた。



写真 01, 02 1990年のプラハ博物館前ヴァーツラフ広場には革命の戦士の写真と花が飾られていた(左)が、2009年には同じ場所にパネル展示がされていた(右)。
[以下写真番号は左から。]

(3) 4回の調査行程

4回の東欧調査のうち(第1回1975年調査は東京大学の調査として実施)、2009年の調査は東欧全体の補完調査の意味合いが強い。本稿の後半では、1990年以降の3回の調査データから現在のチェコにある33広場を限定的にとりあげ、考察する。なお、地名表記はYahoo Mapによる簡便な記述に準拠した。

●1975年調査: ポーランド → Praha → Tabor → Ceske Budejovice → Cesky Krumlov → Trebon → Bila → Slavonice → Telc → Stramberk → ハンガリー (図01参照)

住居集合論その3 東欧・中東地域の形態論的考察, 鹿島出版会参照

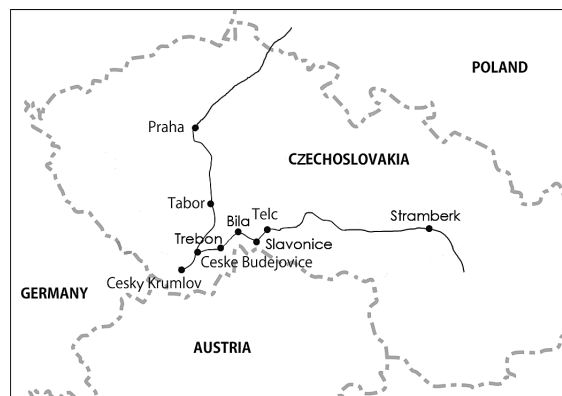


図01 1975年の調査行程図

●1990年調査: ポーランド → Kromeriz → Olomouc → Prikazy → Moravska Trebova → Litomysl → Hradec Kralove → Pardubice → Kolin → Praha → Pisek → Ceske Budejovice → Jindrichuv Hradec → Pelhrimov → Jihlava → ハンガリー

昭和女子大学 学苑 No. 621 東欧都市広場形態についての考察参照

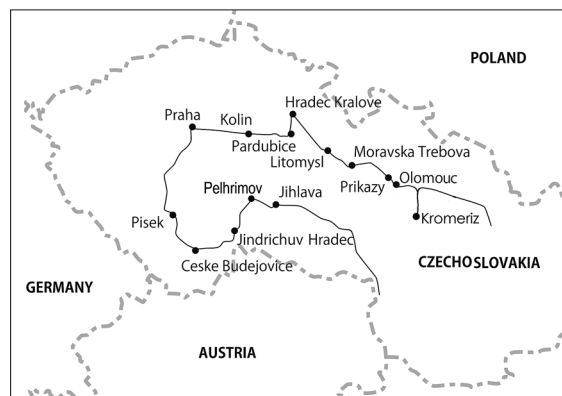


図02 1990年の調査行程図

●1998年調査: オーストリア→Znojmo→Telc→Tabor→
Praha→Plzen→Cheb→Loket→Chomutov→Louny→
Litomerice→Mlada Boleslav→Jicin→Praha→ドイツ
昭和女子大学 学苑 No. 715 中欧地域都市広場形態について
の考察参照

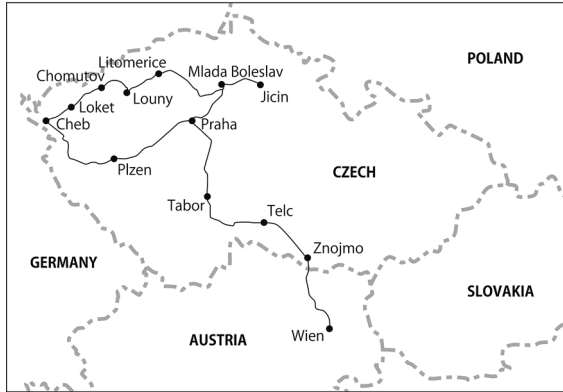


図 03 1998年の調査行程図

●2009年調査: オーストリア→Mikulov→Brno→Velke
Mezirici→Trebic→Telc→Praha→Tabor→Ceske
Budejovice→Cesky Krumlov→Prachatice→Plzen→
Melnik→Liberec→Mlada Boleslav→Nymburk→
Podebrady→Hradec Kralove→ポーランド

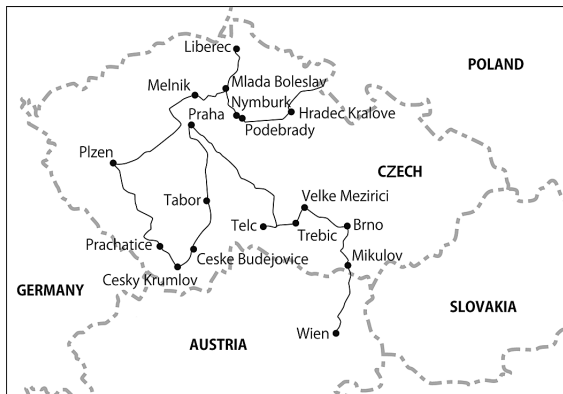


図 04 2009年の調査行程図

(4) チェコ都市空間の変化

補完調査はウィーンからチェコに入国し、ポーランド、スロバキアを経由してハンガリーに入りウィーンに戻る行程をとった。4回の調査で共通に訪れた都市はプラハである。また、テルチ、チェスケー・ブデヨビツェ、ターボル、フラデツ・クラロヴェ、ブルノなども複数回の調査を行った。1975年から2009年までの34年間のスパンは、激動の東欧史のなかで社会の大きな転換期であった。都市の風景の変化が筆者らの興味を中心であったが、調査対象は主として都市の中心の人々が集まる広場であるため、広場自

体の変化はあまり多くはなかった。というのも、中世以来の都市の中心部は石造建築を主体とする建築群がほとんどであったからである。

著者らが肌で感じた都市の変化要素として、以下を挙げることができる。

①まず、人間の数が増加した。都市の中心は観光で集まる人が主体であったが、社会主義時代には自由に旅行ができにくかった状況があり、それが民主化によって解放され、国内旅行者ばかりでなく国外からの旅行者が多く入り込んできたのであろう。民主化後10年で西欧と変わりなくなったといえる。



写真 03, 04 プラハのカレル橋とチェスケー・ブデヨビツェ広場の結婚式

②人間の数の増加に対応して都市のサービス機能が強化した。社会主義時代にはサービスという概念が少なかったと考えられ、看板一つにしても必要最小限のものが掲げられているだけであったのが、旅行者にとって利便性は向上したであろう。また、人々のサービス精神にも変化があり、対応が素っ気なかった社会主義時代に比べると旅行者に暖かい対応をしてくれるようになった。



写真 05, 06 プラハの旧市街広場に設えられたカフェ・レストラン

③物資の供給が整った。社会主義時代にはものを購入するには列を作らないと確保できない状況であった。ガソリンスタンドに行列を作っていた車はもう見る事ができず、ガソリンスタンドの数が圧倒的に増加した。列を作るのは日常必要なパンと牛乳のようなものから始まっていたが、物資の供給は順調に行われ、スーパーマーケットの拡充や小売り店舗の増強によって、必要なものを購入できないということはなくなっていた。

④都市のセンターに新しい建築を建設するための空間の余地がない場合はそのままの形で残されていた。その場合でも、修復や清掃によってきれいな町並を見せる努力はしているようであった。時により修復中で幕の掛かった建築を見ることはあり、何年か後に幕が取り払われ昔のファサードを見られるようになることはよくあることであった。中世の頃のファサードを保存して町並を美しくしているが、建築の内部は作り替えており、新しい企業や、小粋なレストランやカフェに転換しているところはかなりあった。こうした現象は東欧に限らず往々にしてしばしば観察できることであろう。



写真 07, 08 修復中で幕をかぶった建築。プラハとブローフ。

⑤チェコの民主化は東欧の他の国々より早く始まったが、それだけに犠牲も多かった。「プラハの春」でソ連の戦車隊が占拠したプラハのヴァーツラフ広場は1990年の調査時には革命の戦士の写真が掲げられ、花束が添えられていたが、2009年調査時にはそれは確認できず、関係が薄いパネル展示のみしか置かれていなかった。もはや革命は遠い昔の事件となってしまったかのようだ。革命当時の史料は博物館に収蔵されたのであろう(写真01, 02参照)。

(5) 補完調査(2009年調査)の5都市

2009年のチェコ調査はきわめてスムーズに進められた。国境の検問はなくEUに加盟しているチェコの場合、ほとんど西欧と同じであると認識された。ソ連邦の崩壊によって、東欧の社会主義圏という概念は消え、チェコは中欧地域(CIAの分類による)の中心となっており、東欧はバルト3国、ウクライナ、ベラルーシ、モルドバ諸国となっている。

芦川研究室が1990年第1回の海外の都市広場調査を開始した時にはチェコ(元はチェコスロバキア)は東欧の1国とされていた。社会情勢の変化によって地域の位置づけも20年でこのように変化することを改めて認識した。2009年には元の東欧地域の位置づけでの調査を補完する目的で、チェコ、ポーランド、スロバキアそれにハンガリーの4カ国の調査を行った。このうち、以下のチェコの5都市を紹介することとする。

①マイクロ: 南モラヴィア州の町で人口は7,485人(2010年)。オーストリアとチェコの国境の町である。高台にマイクロ城が位置し、1866年プロシア・オーストリア戦争の講和条約が結ばれたところとして知られている。マイクロはウィーンとブルノを結ぶ幹線道路に沿った町として位置づけられている。かつて、マイクロには大規模なユダヤ人コミュニティが存在していたが、第二次世界大戦で厳しい迫害を受け消えていった。町の中心の広場は北側の市庁舎前から南西側に街路状に広がる形をとり、市庁舎前に聖三位一体像と泉が配され、この広場からマイクロ城への導入口が用意され高台の城へのアプローチがなされる。

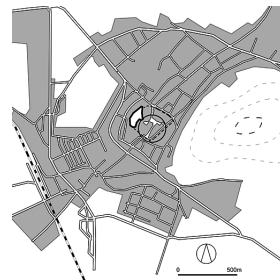


図05 ミクロフ都市図

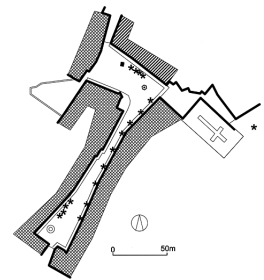


図06 ミクロフ広場図



写真 09, 10 ミクロフの市庁舎前広場。左写真の中央塔は聖三位一体像



写真 11, 12 左がマイクロ城と導入口。右は St. Vaclav 教会の塔

②ブルノ: チェコで2番目に大きい都市でモラヴィア地方の中心都市である。18~19世紀にかけてモラヴィアの工業の中心地となり繁栄した。1860年に市壁が壊され環状道路が設けられたことで町の発展が一層進められた。主要な広場は3つ(図07)ある。Aの広場は下の市場(Dolnirnynek)と呼ばれていた。第二次世界大戦で大きな被害を受け、広場の中心にあった聖ニコラス教会も破壊された。現在では石のモニュメントとして輪郭だけが残されている。三角形の広場は20世紀の初めに新ルネサンス様式に再建され、自由広場と呼ばれている。今日の町の中心であり、レストランやカフェが多く建ち並び人も多い。歩行者空間になってい

るが中央を路面電車が通っている。毎年秋（9月）にはイベントが催される。調査時は仮設舞台でシェイクスピア劇が上演されていた。自由広場と同様に13世紀に作られたBの広場は旧市庁舎が面しており、市がたつことで有名な広場である。かつては上の広場（Horni trh）と呼ばれ、ブルノの中心広場であった。キャベツを売る市場として人を集めていたが、現在は野菜・果物・花などが売られ、午前中は賑わっている。広場の北側には旧市庁舎があり、中央には17世紀にJ. B. Fischer Von 'Erlachが作ったパルナスの泉がある。隣接するモラビア博物館はかつてモラビアの最も古い宮殿であった。Cの広場は現在の市庁舎前の広場（Dominikanske Nam.）である。調査時は広場整備のため工事中であった。

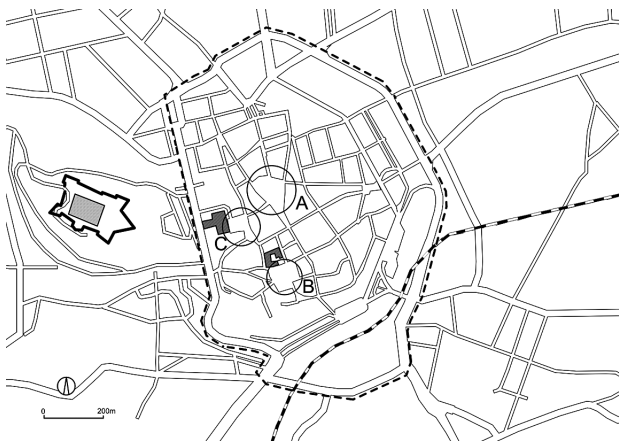


図07 ブルノ都市図（破線はかつての城壁位置）

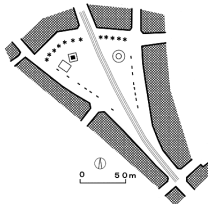


図08 A広場図



写真13 仮設舞台上で上演

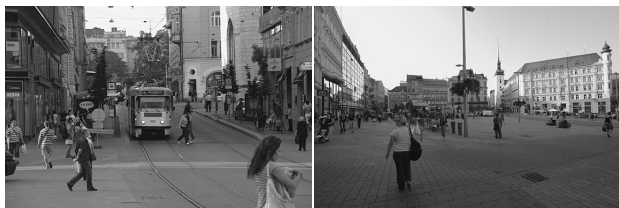


写真14, 15 広場北から路面電車が入る。大きな広場は歩行者空間。

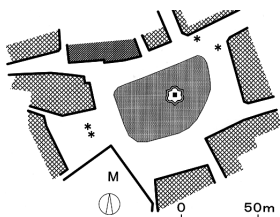


図09 B広場図



写真16 朝市が開かれていた。



写真17, 18 左はパルナスの泉。広場は緑の広場と呼ばれていた。

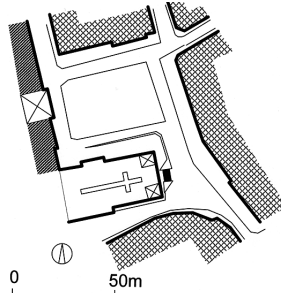


図10 C広場図
Dominikanske 広場（工事中）



写真19（上）ドミニク修道院
写真20（下）新市庁舎

③チェスキー・クルムロフ：南ボヘミアの小都市でクルムロフ城を擁する歴史的文化遺産の町である。町は曲がりくねったヴルタヴァ川の渓谷にある。クルムロフとはドイツ語で「川の湾曲部の湿地帯」を意味する。1250年にピートコフ家が最初の城を築いた。このクルムロフ城はプラハ城に次ぐ2番目の大きさである。スヴォルノスティ広場は旧市街の中心にある。周辺には14～15世紀に建てられたゴシック様式とルネサンス様式の石造の建物が並び、大半は1階部分がアーケードになっている。広場の北側には市庁舎が建ち、白い壁面が一際目立っている。広場の中にペストの記念柱がある。1992年には町全体がユネスコ世界遺産に登録されたため観光客が多い。また、結婚式の様子も見られた。ヴルタヴァ川を介してクルムロフ城が位置している。



図11 チェスキー・クルムロフ都市図

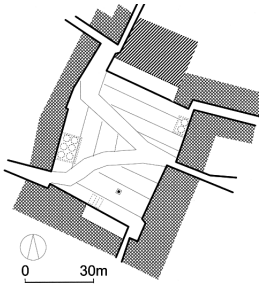


図12 スヴォルノスティ
広場図



写真21 城の塔からの町の全景

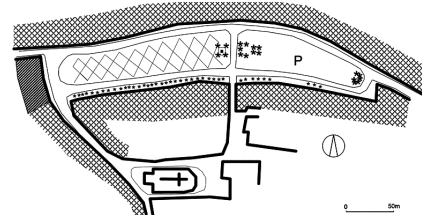


図14 トシェビーチ広場図



写真22, 23 市庁舎前広場。アーケードが取り囲む。



写真24, 25 ヴルタヴァ川に沿った城塞。右は展望場所。



写真26, 27 教会の塔から広場を望む



写真28, 29 左は広場東側の駐車場部分。右は市が開かれる。

④トシェビーチ: 町は1101年に、ベネディクト会の修道者によってひらかれた。広場は、チェコの中でも大きな広場として知られており、市が開かれる時に使用する台が点々と置かれていた。市は月曜日から金曜日の朝8時から、品物が売り切れるまで(午後2時位)開かれ、主に野菜や果物が売られている。また、教会の塔から市場を一望することができる。この町の北側にはユネスコ世界遺産のユダヤ人街があり、人気はなかったが、所々修復され町並が保存されていた。

⑤ヴェルケー・メジージュチ: オスラヴァ川とパリンカ川の合流点に建っていた城(現在博物館)の周辺に人が住み集まったことでできた町である。19世紀、プラハとブルノを結ぶ通商路上に位置していたこともあり、産業が発達し利益を得た。その後定住者が増加し、繁栄していった。通り状の広場の北端には市庁舎、南端には教会(kostel svateho Mikulase)がある。市庁舎は14世紀に建てられ、16世紀にルネサンス様式で再建された。広場では、毎日市場が開かれている。



図13 トシェビーチ都市図

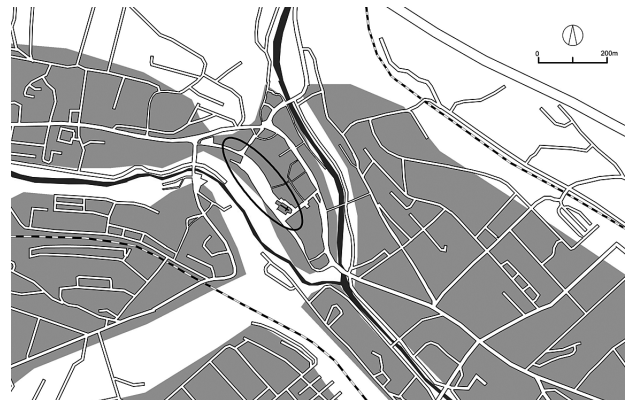


図15 ヴェルケー・メジージュチ都市図

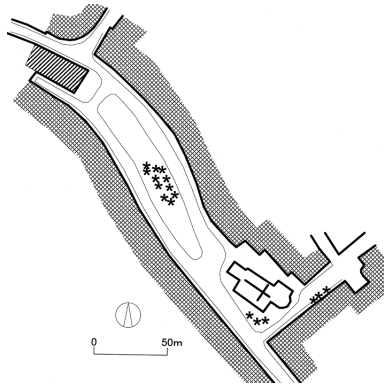


図 16 ヴェルケー・メジジーチ広場図



写真 30, 31 左は市庁舎。右は市場が開かれている広場。



写真 32, 33 教会 (kostel svateho Mikulase)

(6) まとめ

1) 広場の類型

補完調査で調べたチェコの広場は5都市7広場である。1990年および1998年のデータとあわせて示したものが図17と表1に示した合計30都市33広場である。

表 1 チェコ調査広場リスト

調査年	都市名	面積 (m ²)	調査年	都市名	面積 (m ²)
1990	Kromeriz	11,860	1998	Tabor	9,007
	Olomouc	34,039		Plzen	24,196
	Prikazy	6,600		Cheb	16,853
	Moravska Trebova	15,063		Loket	5,933
	Litomysl	21,543		Chomutov	9,018
	Hradec Kralove	30,451		Louny	6,242
	Pardubice	5,917		Litomerice	17,897
	Kolin	9,832		Mlada Boleslav	15,348
	Praha_Vaclauske Namesti	48,785		Jicin	15,495
	Praha_Staromestske Namesti	20,616		Mikulov	5,879
	Pisek	24,148		Brno-A	11,095
	Ceske Budejovice	16,948		Brno-B	8,286
	Jindrichuv Hradec	6,945		Brno-C	4,684
	Pelhrimov	12,825		Velke Mezirici	9,354
Jihlava	38,749	Trebic	20,424		
1998	Znojmo	17,548	Cesky Krumlov	2,951	
	Telec	13,263	平均	15,691	

表1によれば平均面積は15,691 m²であり、この面積を正方形の広場に換算すると一辺が125 mとなり、規模としてはかなり大きいと考えられる。なかでも最大規模の対象はプラハのヴァーツラフ広場である。この街路型広場(広場図は図31参照)は、プラハが中世期、すなわち14世紀のボヘミア国王カレルI世時代に拡大し都市の中心として発展をみた頃に創られた。元々は馬市場として創られたが、その後プラハの歴史の重要な場面にはかならずこの広場が登場する。「プラハの春」、「ピロード革命」などもヴァーツラフ広場が舞台となっている。

ヴァーツラフ広場と同様の街路型広場がプシーカジである。これは田舎の小集落の中心を貫く街路としてあり、部分的に広がった形態をなしている。チェコにはこのような街路が膨らみをもった形態をなすものはたくさん見受けられた。1990年に1カ所調査してリストに載せたが、対象としては数多く存在しているといえる。

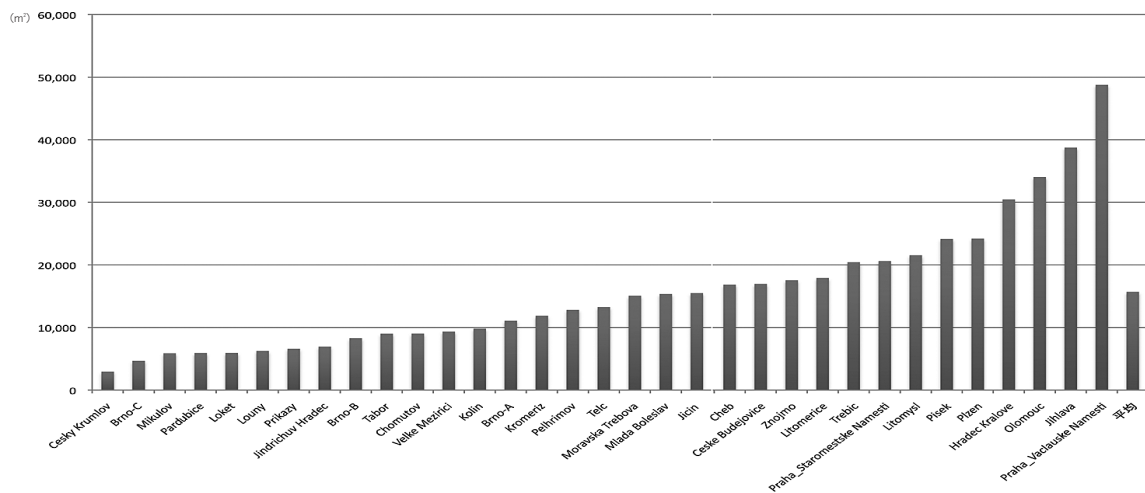


図 17 チェコ調査で採集した広場面積分布図



写真 34, 35 プシーカジの膨らみのある中心広場



写真 36, 37 変形形態広場類型テルチ

面積規模が平均値周辺で一つの類型すなわち変形形態広場類型を認識できる。広場の標準的な形態は矩形であるが、正方形や長方形のタイプに対して細長く変形したものや、三角形のもの等様々な形態がある。チェコの広場はこの変形形態広場類型がかなり幅を利かせているのが特徴ではないかと考える。事例としてトシェビーチ、リトミシュル、ヘプ、ムラダー・ボレスラフ、テルチ等がある。これに大規模なフラデツ・クラロヴェ、オロモウツ等が加わり、小規模なヴェルケー・メジジーチ、コモトフ、ロケットを加えると、合計 10 広場となる (図 18)。

2) 変形形態広場から

以下、前述のトシェビーチ、ヴェルケー・メジジーチを除く 8 広場を概説する。

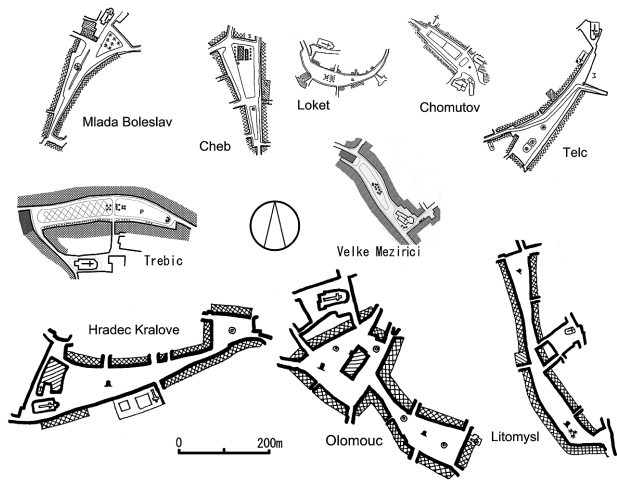


図 18 チェコの変形形態広場類型

●テルチ

テルチはルネサンス様式の中心広場がそのまま保存されており、1992年にユネスコ世界遺産に登録された。広場の一面に城が位置している。城を築いたザハリアッシュ・フラデツの名称が広場名称となっている。

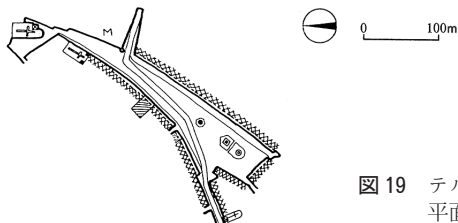


図 19 テルチの広場平面図

●ヘプ

ドイツ国境に近く、バイエルンからボヘミア地方へぬける通商路上の都市として栄えた。町の起源は9世紀に遡る。広場は多くのゴシック様式の建物で囲われている。中央にやはりゴシック様式の市庁舎が建つ。広場には北側にローランドの噴水と南側にヘラクレスの噴水が位置している。

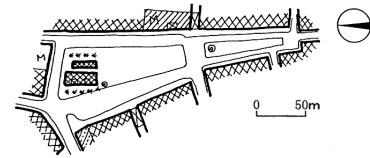


図 20 ヘプの広場平面図



写真 38, 39 変形形態広場類型ヘプ

●リトミシュル

スメタナの生まれた都市リトミシュルは起源を10世紀から12世紀としている。長さ500mに及ぶ広場はゴシックの市庁舎とルネサンス様式やバロック様式の建物で覆われている。



図 21 リトミシュルの広場平面図



写真 40, 41 変形形態広場類型リトミシュル

●フラデツ・クラロヴェ

フラデツ・クラロヴェはプラハの東方約 100 km に位置し、オルツェ川がドナウに流れ込む河口に位置している。広場は末広りの形をし、もっとも広がったところに市庁舎と 1303 年に創建された大聖堂がある。

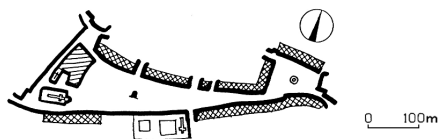


図 22 フラデツ・クラロヴェ広場平面図



写真 42, 43 変形形態広場類型フラデツ・クラロヴェ

●ムラダー・ボレスラフ

ムラダー・ボレスラフは中央ボヘミアの都市で、イゼラ川の左岸に位置している。プラハの北東 50 km で、17, 8 世紀には重要なユダヤ人の都市であった。広場の一面に中世の城とルネサンス様式の市庁舎が建っている。城北側に位置する広場にはルネサンス様式の教会とゴシック様式の教会がある。



図 23 ムラダー・ボレスラフの広場平面図



写真 44, 45 変形形態広場類型ムラダー・ボレスラフ

●コモトフ

北ボヘミアのコモトフには、ドイツ騎士団の要塞があり、現在では市庁舎・博物館として使われている。広場の南東側には初期バロック様式のイエズス会の教会がある。

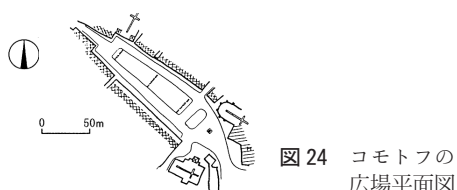


図 24 コモトフの広場平面図



写真 46, 47 変形形態広場類型コモトフ

●ロケット

チェコ語で Loket は肘を意味する。旧市街は川によって大きく湾曲した肘のような形をしている。丘の上に城があり、等高線に沿うように曲線を描いた広場がある。広場中央にはペスト記念柱がある。

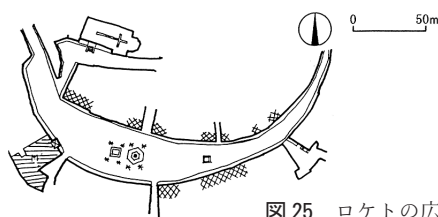


図 25 ロケットの広場平面図



写真 48, 49 変形形態広場類型ロケット

●オロモウツ

オロモウツはモラビア地方中部に位置するチェコ第 5 の都市である。写真の中央の聖三位一体柱はユネスコ世界遺産に登録されている。広場は二つの部分に分かれており、その一つの中央部に市庁舎がある。

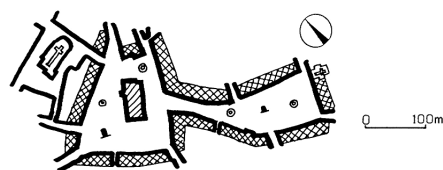


図 26 オロモウツの広場平面図



写真 50, 51 変形形態広場類型オロモウツ

3) 広場類型の分布

さて、変形形態広場類型に対して、もっとも広場らしいタイプとして矩形形態広場類型があるが、その典型としてチェスケー・ブデヨビツェやモラヴスカー・トジェボヴァー、ターボル、プルゼニ等を挙げることができる。図27はチェコにおける27都市の分布を示したものである。各都市の有する典型的広場を図31の分類一覧から拾うと、若干の例外はあるが、矩形形態広場類型が分布するのはボヘミア地方に多く、それに対して変形形態広場類型が分布するのはモラビア地方に多いといえる。これがいかなる要因によるものかは次の課題とすることとする。

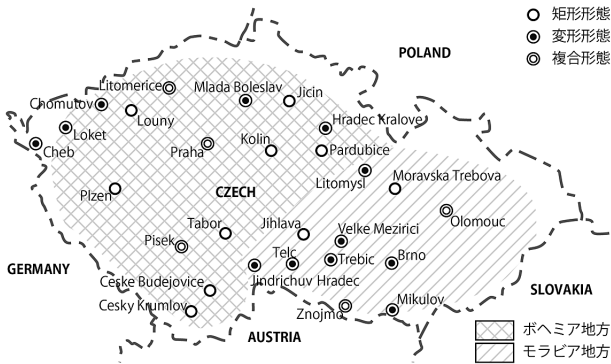


図27 チェコの調査都市分布図

4) 矩形形態広場の典型2例

チェスケー・ブデヨビツェは南部ボヘミアの中心の大都市である。モルドヴァ川の流れのそばに13世紀中頃形成されそれ以降繁栄の歴史を有している。中心広場は正方形で、その将棋盤の形は13世紀プルシュミスル朝のオタカル2世時代の植民都市の特徴的な例の一つといわれる。

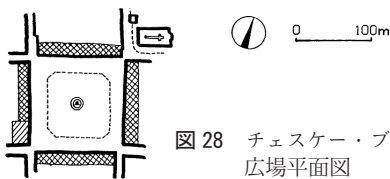


図28 チェスケー・ブデヨビツェの広場平面図



写真52, 53 矩形形態広場類型チェスケー・ブデヨビツェ

モラヴスカー・トジェボヴァーはモラビア地方パルドゥビツェの都市である。広場は1.2ha余りで規模は大きな広場である。広場正面に市庁舎が位置しているが、1509年に火災で焼け1541年に再建されたものである。

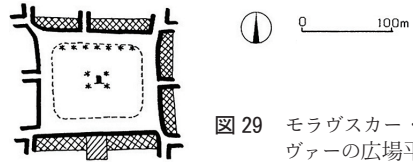


図29 モラヴスカー・トジェボヴァーの広場平面図



写真54, 55 矩形形態広場類型モラヴスカー・トジェボヴァー

5) チェコの広場類型の構成

チェコで調査した33の広場事例を概観して整理したものが図31に示されている。これは似たもの同士を近くに置くKJ法の手法を応用して作り上げたものである。31図に示したように、街路型広場類型については調査事例が少なく、今回は例外として除外して検討したい。さて、この類型図から、広場は二つの大きなブロックに区分されていることが判る。つまり、矩形形態広場類型と変形形態広場類型である。矩形形態広場類型は一般的な広場形態として西欧にも東欧にも見受けられるタイプであるが、これと同等な数で変形形態広場類型が存在していることが大きな特徴といえよう。そして、面積規模がかなり大きく、全体の平均値位置で集中していることも特性といえる。また、変形形態広場類型と重なる形で複合形態広場類型が存在することも一つの特徴といえるであろう。

なお、都市図広場図で使用している記号等は図30の凡例によっている。

広場形態図	
	市庁舎、タウンホール等の行政関係施設
	市庁舎等の施設以外の公共的建物 広域行政施設、警察署、郵便局等
	広場内の影やモニュメント
	広場内の特徴的な塔状の建物・構築物
	建物化された商業施設
	緑地等の自然物：植栽、芝地等
	宮殿・館等の建物施設
	泉
	城郭・城壁（現存するもの）
	城郭・城壁で過去にあったと考えられる物
	河川・湧水などの水面
	教会・聖堂建築物
	歩行者と車の領域区分 (段差等で物的に設置されている物)
	博物館・美術館
	アーケード形式等の屋外部分
	市場施設（屋根付き）
都市に於ける広場の位置図	
	市庁舎、タウンホール等の行政関係施設
	広場内の影やモニュメント
	広場内の特徴的な塔状の建物・構築物
	緑地等の自然物：植栽、芝地等
	城郭・城壁（現存するもの）の境界要素
	城郭・城壁で過去にあったと考えられる物
	河川・湧水など自然領域との境界
	教会・聖堂建築物
	鉄道線路

図30 凡例

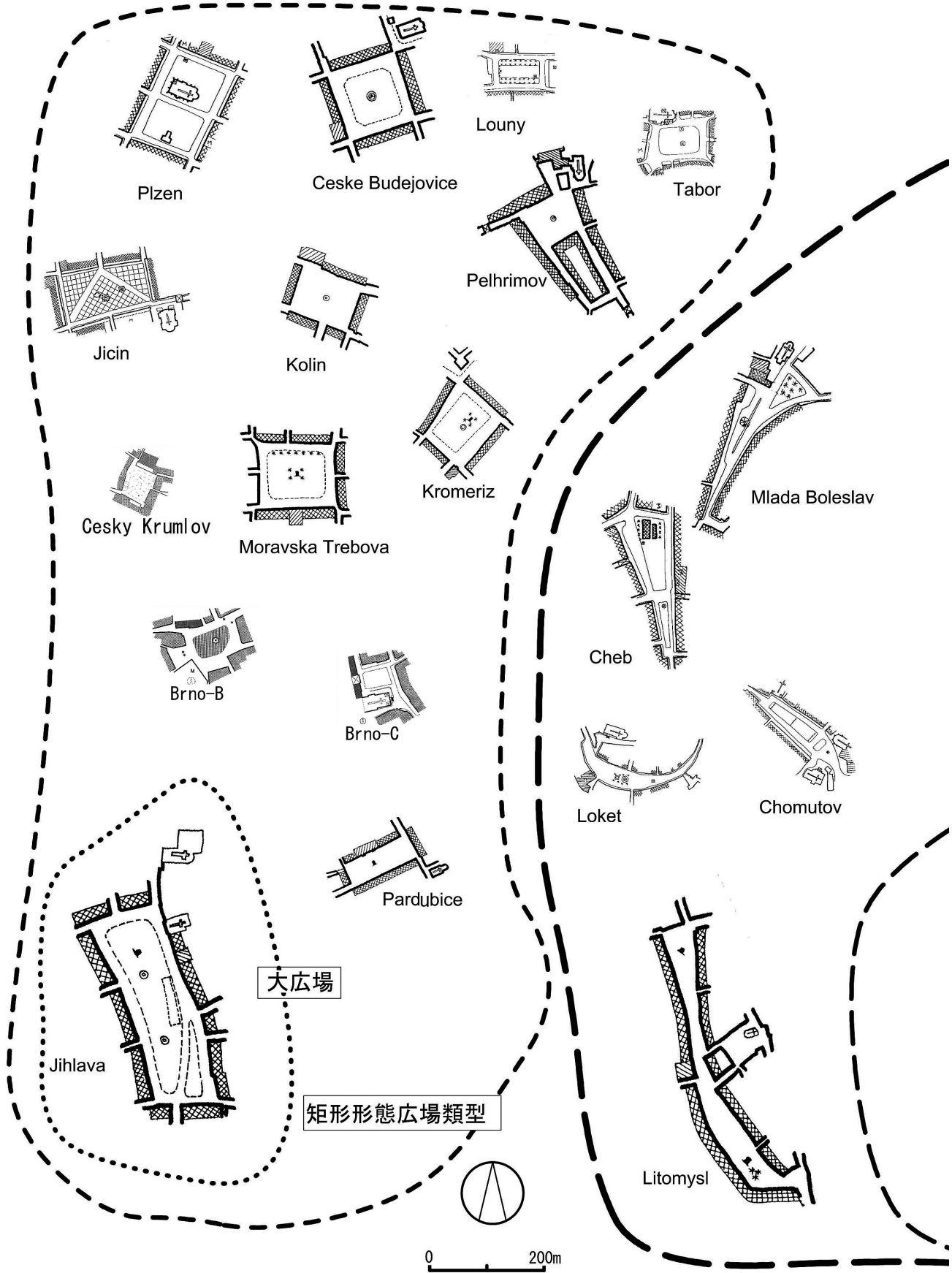
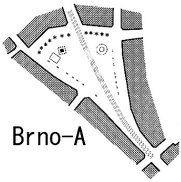
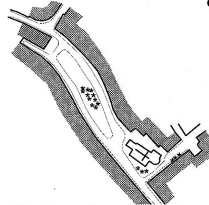


図 31 チェコの広場類型の構成

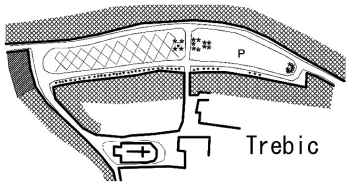
変形形態広場類型



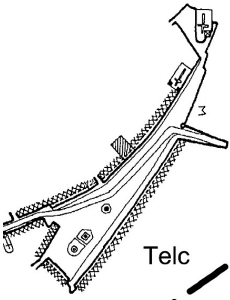
Brno-A



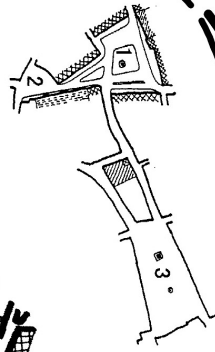
Velke Mezirici



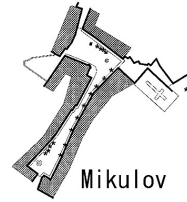
Trebic



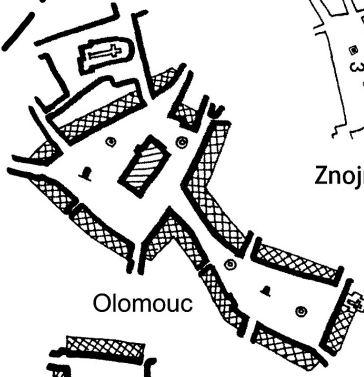
Telc



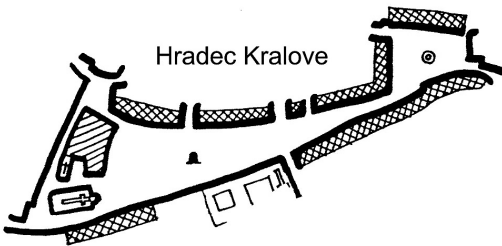
Znojmo



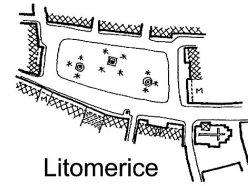
Mikulov



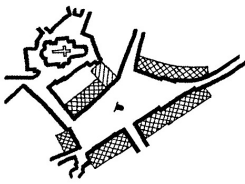
Olomouc



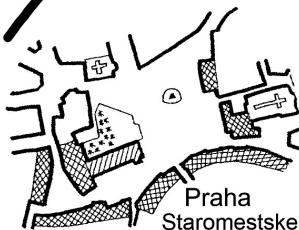
Hradec Kralove



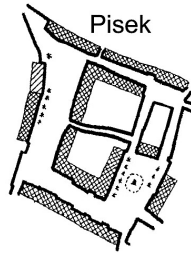
Litomerice



Jindrichuv Hradec



Praha
Staromestske Namesti



Pisek

Praha
Vaclauske Namesti



Prikazy

街路型広場類型

複合形態広場類型

(7) おわりに

芦川研究室が海外都市広場調査を開始したのは1990年で、2005年のイギリス調査で一応の締め括りとした。東欧の民主化後1年にあたる1990年に転換期の東欧調査を最初に行うことができたことは東欧を考えるうえで意義深いことだと考えた。そこでここ数年は研究テーマとして、民主化後20年の東欧がどのように変化していったかを辿ってみたいと考えていた。

2009年の調査ではチェコ・ポーランド・スロバキア・ハンガリーに入り、2010年にはルーマニアに入った。近い将来は旧ユーゴスラビア（スロベニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア、モンテネグロ、マケドニア6カ国）をさらに調査したいと考えている。

今回はチェコのための報告としたが、今後は補完的調査とともに、東欧全域の調査を行い、報告する予定である。特に、最も西欧寄りであったユーゴスラビアが、民族紛争の結果、6カ国に分離独立していったことにより都市自体がどのように転換していったかを捉えてみたい。

参考文献

1. 東京大学生産技術研究所・原研究室，住居集合論その3 東欧・中東地域の形態論的考察，鹿島出版会，1979
2. 芦川智・鶴田佳子，東欧都市広場形態についての考察—1990年東欧都市広場調査報告—，昭和女子大学 学苑 621号，1991
3. 芦川智・金子友美他4名，中欧地域都市広場形態についての考察—1998年 第10回海外都市広場調査報告—，昭和女子大学 学苑 715号，1999
4. L. Ptacek, Mikulov: New guide to the town, Avedon for the Town of Mikulov, (刊年記載なし)
5. Dobromila Brichtova, The Chateau of Mikulov, Regionální museum Mikulov, 2002
6. Jaroslav Klenovsky, Historic Sites of Jewish Mikulov, Mikulov regional museum, 2000
7. Alep Filip, Brno: City guide, K-public, 2006
8. Mgr. Zdena Flašková, チェスキー・クルムロフ, Vydavatelství MCU s.r.o., 2002
9. Petr Pavelec, チェスキー クルムロフ, (発行所記載なし), 2003
10. Pavel Herman, Třebíč, Kraj Vysocina, 2006
11. Vladimír Makovský, Velké Meziříčí, UNIPRESS Žďár nad Sázavou, 2007

(あしかわ さとる 環境デザイン学科)

(かねこ ともみ 環境デザイン学科)

(たかぎ あきこ 環境デザイン学科)